

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



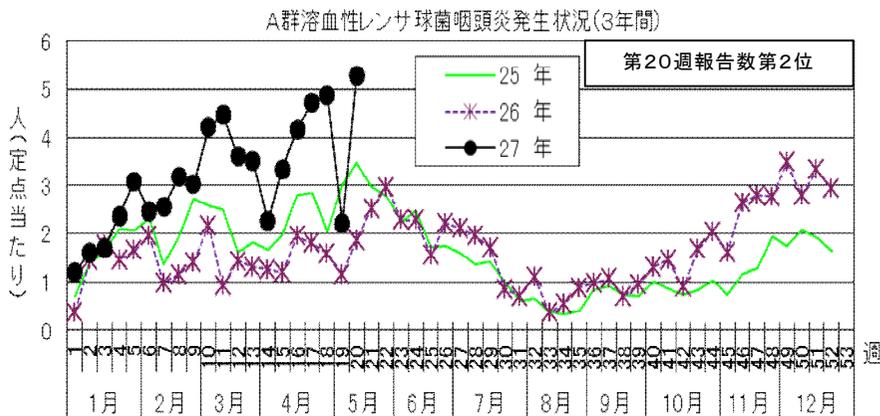
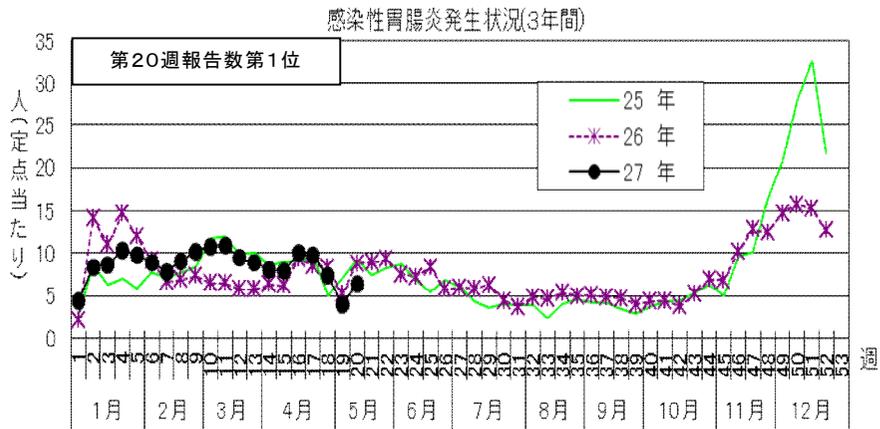
平成27年5月11日（月）～平成27年5月17日（日）〔第20週〕の感染症発生状況

第20週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 手足口病でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.33人と前週（4.00人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は5.27人と前週（2.21人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

手足口病の定点当たり患者報告数は1.61人と前週（0.45人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



過去最多の報告数～A群溶血性レンサ球菌咽頭炎～

川崎市におけるA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は増加傾向で、第20週は5.27人となり、平成11年のデータ収集開始以降、過去最多となりました。特に、高津区や宮前区で多く、地域的な流行が発生していると考えられます。

年齢階級別では6～8歳に多く、小学校での予防対策（手洗いやマスクなど）が重要です。

どんな症状がでるの？

潜伏期間は2～5日、発症は急激で、咽頭痛から始まり、倦怠感、38℃以上の発熱、頭痛がみられます。小児ではしばしば嘔気、嘔吐、腹痛を伴います。

これらの症状がみられた際には医療機関を受診し、診断が確定した場合は、医師の指示どおり治療を受けましょう。

